

令和4年度埼玉県オハイオ州スカラシップ

語学・大学留学コース 12月レポート

令和4年度奨学生 宮原佑季

12月8日から1月8日まで冬休みでした。ほとんどの学生は帰省し、大学も閉まってしまったため、多くの日本人留学生は旅行をしていました。私は冬休みの前半に、Oilers Serving Abroad というフィンドレー大学のプログラムでコスタリカに渡航し、冬休み後半は友人の家にお邪魔しました。本レポートでは12月上旬の期末試験と冬休みについてご紹介します。

【期末試験】

12月上旬は期末試験期間でした。私は4つの期末試験と最終レポートがありました。ライティングの授業では Expository Essay と呼ばれるタイプのエッセイ、ジェンダーの授業では映画から見る過去のジェンダー規範についてのレポートを書きました。キリスト教とユダヤ教の伝統という授業と国際学の授業では試験が行われました。試験期間中は多くの学生が夜中まで勉強しており、私も試験前日は友人と共に夜中3時ごろまで学内のフードコートで勉強しました。学内では Red Eye Week と呼ばれるイベントが1週間開催され、夜中までカフェが開いていたり、フードコートで夜限定メニューが販売されていたりと日本の大学の期末試験との熱量の違いを感じました。

【Oilers Serving Abroad】

冬休み前半はフィンドレー大学が提供している短期留学プログラムでコスタリカに11日間滞在し、ボランティア活動を主に行いました。移民向けシェルターの開設に向けた掃除や、子ども支援センターでのクリスマスパーティーの準備、川辺の掃除、州立公園のハイキング用小道の整備など様々な活動を行いました。ボランティア活動を通して、コスタリカ社会では市民レベルでの支援や助け合いが充実している印象を受け、社会やコミュニティの機能について考える良いきっかけとなりました。ボランティア活動以外にも、火山や滝を見るハイキングや国立公園のツアー、コーヒー農場訪問などの活動もありコスタリカの自然を十分に満喫できたプログラムでした。多量の水を使用するコーヒー生産において水を少量に抑える機械を使用しているコーヒー農家や、水力発電を使用して電気を自給自足しているレストランなどを訪問し、コスタリカの環境保護活動の浸透具合に驚くと共に、コスタリカの先進的な取り組みを学ぶことができた有意義な渡航となりました。現地の方はスペイン語と英語を織り交ぜて私たちと交流しようとしてくれ、言語が完璧には通じなくてもコミュニケーションをとろうとしてくれる姿勢に感動しました。



ハイキング用の
小道を作りました。



難民へ寄付するもの
をみんなで持ち寄り
ました。



パーティーで配布す
るお菓子を 500 パッ
ク以上詰めました。



国立公園ではナマケモノを
見ることができました。

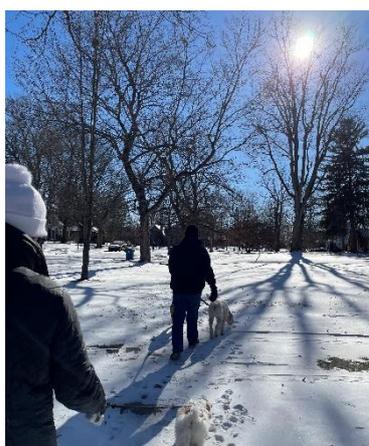


火山ハイキングでの景色
です。

【クリスマス・元日】

冬休み後半はインディアナ州に住む友人を訪問しました。クリスマスやお正月といった大イベントをアメリカの家庭で迎えることができた貴重な体験になりました。クリスマスは-20°C以下という記録的寒波のおかげ(?)でホワイトクリスマスを迎えることができました。アメリカではクリスマスは家族が集まるイベントのため、友人の家族や親戚と共に、食べ物を持ちよるポットラックパーティーやプレゼント交換などをして祝いました。テレビではクリスマスを題材にした映画が一日中放映されており、友人の家族おすすめのクリスマスムービーと一緒に視聴しました。皆それぞれおすすめのクリスマスムービーがあり、クリスマスがいかに大きなイベントなのかを感じました。街中ではクリスマス映画を題材にしたイルミネーションも多く見られ、アメリカのクリスマス文化について学ぶことができ興味深かったです。

大晦日は友人の家族の近所の家でパーティーをしました。初対面にも関わらず温かく迎えてくださり非常に嬉しかったです。ニューヨークのカウントダウンの中継を見ながら乾杯をして新年を迎えました。大晦日や元日は恋人同士で過ごす人が多いと聞いたことがありますが、実際にパーティーやニューヨークの中継では多くのカップルが新年を迎えると同時にキスしており、日本の年越しとの違いが印象的でした。



本プログラムの応募やフィンドレー大学での生活について興味や質問がございましたら、miyaharay@findlay.edu にお気軽にご連絡ください。私の経験が少しでもお役に立てれば幸いです。